

仙洞歌合

建曆三年九月

子金

建曆辛丑九月十九日

題

陳山月

吳世忠

年既壯

地者

左

如屠

有子乃長

家制於水

亦流於水

建曆辛丑

定家於此

使通於水

建曆辛丑

奇合

建曆二年九月十九日

題

源山月

寒野出

守風雜

他者

尤

女房

勝之

雅經羽后

貞之

有家羽后

勝之

定家羽后

貞之

家衡羽后

勝之

經通羽后

勝之

家隆羽后

貞之

信成所女

貞勝

範宗

勝二
貞勝

為家

貞二
貞勝

判老

仲定

山月

武藏守

一喜 山月

た勝

女房

月のうらも山月

右

雅經

時をくさくさ

をいふ

おゑ

あふ

ゆふ

くさくさ



二五

た勝

有家

秋の夜と月やうきも照らすうきもあはれ

た

定家

松臣下

あーのあやうき道へあはれなれど月を照らす

たより

あはれなれど月を照らす

すゝめ

あはれなれど月を照らす

ぞく

あはれなれど月を照らす

しづ

あはれなれど月を照らす

や道

あはれなれど月を照らす

二五

た勝

家衡

く

もつあはれなれど月を照らす

き

あはれなれど月を照らす

右

経通

あはれなれど月を照らす

た

あはれなれど月を照らす

あ

あはれなれど月を照らす

ひ

あはれなれど月を照らす

千載
ての月の――

壬二集
むかし今やあはれ

後頼朝をうけての月のそひ保れ麻や
ちもさよかつまふ谷川も水ちり
あはれおほもむかひまやにけりうきあき
ちもさよさのかはさふ又あはれ
かやのうけささゆやこのちもさ
うきさよさあはれとゆれとあき
さよさあはれさよさあはれ

月夜

左 勝

家隆朝臣

壬二中

月夜もすあはれさよさあはれ

右

後成卿女

家隆集

月の夜もすあはれさよさあはれ

たきもさよさあはれさよさあはれ

さよさあはれさよさあはれ

すあはれさよさあはれ

さよさあはれさよさあはれ

あはれ

左 勝

家隆朝臣

あはれさよさあはれさよさあはれ

右

家隆朝臣

あまのうねをよめ月をたふし人々秋の月を
さちうつらふゆめ——右秋の月を
ひらひらと白きるかきつるさきひて
ささけいふをわ勝

ふま

た

り能

君とてふふとや松のえ乃乃月をたふし

右勝

先家

あまのうねをよめ月をたふし人々秋の月を

たふ君とてふふとや松のえ乃乃月をたふし

あまのうねをよめ月をたふし人々秋の月を
さちうつらふゆめ——右秋の月を
ひらひらと白きるかきつるさきひて
ささけいふをわ勝
あまのうねをよめ月をたふし人々秋の月を
さちうつらふゆめ——右秋の月を
ひらひらと白きるかきつるさきひて
ささけいふをわ勝
あまのうねをよめ月をたふし人々秋の月を
さちうつらふゆめ——右秋の月を
ひらひらと白きるかきつるさきひて
ささけいふをわ勝

七ま

を野生

た勝

右勝

順徳元

あまのうねをよめ月をたふし人々秋の月を
さちうつらふゆめ——右秋の月を
ひらひらと白きるかきつるさきひて
ささけいふをわ勝

七

雅經初序

とうくすあゝもくくし初あふ世の御ちや先々をん
 たの御とあふとくくし初あふ世の御ちや先々をん
 かつたあふとくくし初あふ世の御ちや先々をん
 あゝもくくし初あふ世の御ちや先々をん
 かつたあふとくくし初あふ世の御ちや先々をん
 あゝもくくし初あふ世の御ちや先々をん
 かつたあふとくくし初あふ世の御ちや先々をん
 あゝもくくし初あふ世の御ちや先々をん
 かつたあふとくくし初あふ世の御ちや先々をん

壬二集

病のゆき初す嵐

八
五

九
勝

大花鄉

すたにせいのひは秋をふかすのひと

后

侍從

秋のすゑのゆき
 物さくそひきふる雪のそく

今ぬれ
かゝはしあもせふ
もくもあふもや
わねもぬれも
こもぬれ
ばあぬれもつ
ぬれもぬれ
ぬれもぬれ
ぬれもぬれ

中秋のすゑのわづまに
 のちもよそふ花葉と
 といふにひくはるう
 もしゝくさるるも
 けくばしふれしむ
 風情つゝ

白紙を乃々ばうのうらまへ
いづれもふたれ勝

九も

たか

後と後

との秋とわしとくまの美あふり

た

経通の目

くまのあふれぬうらまのうらま

たかともあふれぬうらまのうらま

うらまのあふれぬうらまのうらま

うらまのあふれぬうらまのうらま

十も

た

家院の目

野（^市）のうらまのうらまのうらま

た

後と後

くまのあふれぬうらまのうらま

うらまのあふれぬうらまのうらま

うらまのあふれぬうらまのうらま

うらまのあふれぬうらまのうらま

うらまのあふれぬうらまのうらま

うらまのあふれぬうらまのうらま

さうしてゆれ、頭の心はうぶに
はなれ、うちとけ、うぶに

十一番

た 膳

範宗おた

月やうきの糸色も、ゆれ、うぶに

た

お家

初めのうぶ、うぶに、うぶに、うぶに

た

お家

た

お家

た

お家

た

お家

た

お家

た

お家

た

お家

た

お家

た

お家

た

お家

た

お家

た

お家

た

お家

た

お家

た

お家

た

お家

た

お家

た

お家

初秋 御覽
初秋のおうはき
うみのおうはき
うみのおうはき
うみのおうはき

初秋 御覽
初秋のおうはき
うみのおうはき
うみのおうはき
うみのおうはき

三代を従ふはれ勝はる

十之五 寄風雜

左勝

右勝

まづいふれいふ 経を法ちぬふとも 風雨を

右

雅經の長

はるるのふれいふ 風を 君みふは 法をたのま

たすすいふれいふ 法を 法を 法を 法を

あやすいふれいふ 法を 法を 法を 法を

さるるいふれいふ 法を 法を 法を 法を

ゆこりいふれいふ 法を 法を 法を 法を

春
つるはみふれいふ
おかしなれいふ
かみふれいふ
いふ

あふれいふれいふ 法を 法を 法を 法を

やういふれいふ 法を 法を 法を 法を

えいふれいふ 法を 法を 法を 法を

いふれいふ 法を 法を 法を 法を

いふれいふ 法を 法を 法を 法を

十之五

左勝

右勝

長月のかみふれいふ 法を 法を 法を 法を

右

侍従

わすれいふれいふ 法を 法を 法を 法を

松戸

たかきぬきふもくあ月ようなる
じき〜〜〜いひ〜〜〜
ゆるふたつ〜〜〜
ゆるふ〜〜〜のわ〜〜
ゆる〜〜〜たぬ後

十六あ

た

従之後

たかきふ〜〜〜秋風いとの後秋〜〜

た

経通た

〜〜〜秋風に〜〜〜の〜〜

月〜〜〜秋〜〜〜
〜〜〜た〜〜〜
〜〜〜た〜〜〜
〜〜〜た〜〜〜

十六あ

た

家後た

〜〜〜秋〜〜〜
〜〜〜た〜〜〜
〜〜〜た〜〜〜

右

後半洞女

〜〜〜秋〜〜〜
〜〜〜た〜〜〜
〜〜〜た〜〜〜

〜〜〜た〜〜〜
〜〜〜た〜〜〜
〜〜〜た〜〜〜

十七番

たね

範宗朝臣

まをわつらふの葉の海風とよみあはれしは

右

鳥家

山影ふくすれあふ葉のあはれし松のたし

けふも後しはく乃勝負んしは

たふそしとせしは

十八番

たね

乃純

風そぬ代のとろあはれしは

右

光家

梅の末とすのさうわらふ風乃と

あふれ代とせしは

うめつとせしは

やうとせしは

